

# 男女共同参画の視点での防災意識啓発事業

## 【事業実施主体】

宮城県

## 【連携団体】

- ・市町村
- ・（公財）宮城県国際化協会

## 【目的】

災害時の避難所運営等については、外国人への対応も求められることもあることから、東日本大震災の経験を活かし、当県で作成した「男女共同参画・多様な視点みんなで備える防災・減災のてびき」（以下、てびき）を多言語に翻訳作成し、外国人に対して、災害時の避難所運営等の意識啓発を図るもの。

## 【主な取組】

○てびきを次のとおり多言語に翻訳作成した。

- ・英語
- ・中国語（繁体・簡体）
- ・韓国語
- ・タガログ語
- ・ベトナム語

○てびき（英語）をA1サイズのパネルに作成した。

○多言語のてびき及び英語のパネルを当県で開催した「男女共同参画・多様な視点からの防災対策実践講座」で活用した。

○多言語のてびきを当県の男女共同参画専用サイト「とらい・あぐる みやぎ」に掲載し、広く周知を行った。

○平成27年3月14日から3月18日まで開催された「国連防災世界会議」において、てびきを設置等し周知を行った。

# 事業実施概要

○多言語のてびき及び英語のパネルを県内6カ所で開催した「男女共同参画・多様な視点からの防災対策実践講座」で展示及び配付を行った。講座の参加者数は次のとおり。

・大和町	39名
・美里町	22名
・利府町	64名
・名取市	70名
・村田町	47名
・多賀城市	39名
計	281名

○このうち、名取市で開催した講座は、（公財）宮城県国際化協会 次長兼企画事業課長 大村昌枝 氏を講師として、「外国人の視点からの防災・減災」をテーマに基調講演を行った。

○また、多賀城市で開催した講座は、「第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム」として開催した。立教大学大学院教授 萩原 なつ子 氏を講師として、外国人を含む要配慮者などの支援が必要な人たちが安心して暮らせる地域づくりについて、参加者同士が話し合いを行う「ワールドカフェ方式」により実施した。

○第3回国連防災世界会議の期間中、「国連防災世界会議に係る東北防災・復興パビリオン」に英語と日本語のてびきを展示し配付するとともに、宮城県庁1階にも英語と日本語のパネルを展示し、周知を行った。

# 事業効果

講座の参加者に協力いただいたアンケート結果によると、満足度は、名取市・多賀城市ともに「大変満足だった」「満足だった」を合わせると84%になっている。

また、参加者からは、「あらためてどう外国人に接していったらいいか考えさせられた」や「外国人も日本人と同様に抱えている悩みの解決に配慮することが大事と思った」などのコメントも寄せられていることから、事業効果があったものと考えている。

# 今後の課題

外国人に対して、災害時の避難所運営等の意識啓発を効果的に行うためには、（公財）宮城県国際化協会などの外国人との関わりが深い団体との連携が重要であり、今般の経験を活かし、関係団体と情報交換などを行っていくことが必要と考えている。